



# プロバスだより

## 第311号

2021年10月14日発行

編集・発行：情報委員会

東京八王子プロバスクラブ

創立1995年10月18日

2021～2022年度 テーマ

プロバスライフを「元気に楽しもう」

### 第311回例会 中止

9月9日（木）開催予定の第311回例会は緊急事態宣言期間中につき、休会となりました。

#### 1. 会長挨拶

##### 河合会長



—組織の活性化に向けて—

残念ながら9月例会も新型コロナウイルス蔓延のために中止となりました。8月例会に続いての今期2度目の休会となります。

会員の皆様には延長された緊急事態宣言の中で、お変わりなくお過ごしのことと思います。新型コロナウイルスの蔓延により、一昨年からプロバスクラブの例会や諸行事が満足に開けない状態が続いております。

人が集まって交流する。このコミュニケーションの第一歩が否定される新型コロナウイルスの世界的な流行は、社会・経済活動に計り知れない打撃を与えています。「人が人と会う」こんな当たり前なことが危険だとされ、制約される社会生活は経験したことはありません。

しかし、この基本的な行動を我慢することがコロナ禍の収束に不可欠の事であれば、私達はじっと我慢しなければならないのでしょうか。会員の健康を第一に考え、今後とも慎重な判断のもとにプロバス活動を展開したいと考えます。

今年度のプロバスクラブの運営の中で、委員会活動を支える組織の在り方について、理事会の中に小委員会を作り、議論を進めております。プロバスクラブの会員数の減少傾向や高齢化の進展など、組織の活力の減少に対する、組織の効率的な在り方を課題としております。

2022年の秋には、全日本プロバス協議会の全国総

会の開催が八王子市で予定され、既に準備に取り掛かっております。

会員皆様のコロナ対策を含めた健康管理の万全と会務へのご理解ご協力を改めてお願い申し上げます。

第311回の例会は中止となりましたので、9月2日の理事会の審議概要を掲載致します。

情報委員会

#### 2. 理事会での審議概要

##### (1) 幹事報告

##### 山口幹事

幹事報告は次の通りです。

###### ① 9月例会の中止



先月に引き続き今月もまた止む無く中止となりました。一部の理事からは非常事態宣言下にあるとは言え、我々高齢者は少なくとも大半がワクチン接種の2回は終了しており、

限定した時間と換気に対するきちんとした対策をすれば例会の開催は可能ではないかとの意見もありました。

しかしながら最近の感染状況並びに非常事態宣言下では開催する環境にないとのほぼ全員の意見であり、中止の次第となりました。

来月こそは非常事態宣言も解除され、人流減少や予防接種の効果も出て感染者も減少し例会が開催されることを強く願っています。

###### ② 委員会再編小委員会の初回会合

8月27日（金）に委員会の再編成を検討する小委員会の初回会合を持ちました。本件については既にご承知のとおり会員の高齢化や会員数の減少により「委員会」の適正な組織構成等が困難になっていることに起因しています。

今後この小委員会をどのように進めていくのか。改編ありきではなくゼロベースによるフリートーカー

グをいたしました。

その結果、委員会活動の効率化、活性化のために以下の4項目について各理事から意見を徴し、取りまとめた上で改めて検討することといたしました。

- (1) 例会、情報、会員、研修、地域奉仕のそれぞれの委員会における業務内容の現状を把握し、さらに運営上の問題を抽出し改善に向けた施策を検討する。
- (2) 現在の単年度任期制から複数年度制への導入を検討する。
- (3) 年間事業の実施に当たっては、必要に応じ各委員会間の連携、協力を行う。
- (4) 各委員会の次年度の執行体制に関し、委員長、副委員長の人選について会長に進言もしくは提案を行う。

第2回目の検討委員会の結果について次号にて報告する予定です。

### ③ 八王子市長表敬訪問

8月25日(水)石森八王子市長へ河合会長の新任の挨拶に伺いました。先方は安間教育長並びに音村生涯学習スポーツ部長に同席頂き、当方からは副会長、幹事、地域奉仕委員長が訪問しました。

会長より本年度の主たる活動内容を伝えるとともに、生涯学習サロンの開講式へのご臨席や特別講話の講師派遣等のお願いをしました。

## (2) 各委員会からの報告

### 1) 例会委員会

齊藤委員長

例会中止のためバースデーカードは郵送と致しました。9月生まれの会員は次の方々です。



左から吉田信夫、馬場征彦、野口浩平、岡部 洽各会員

八王子青年会議所理事長による卓話を予定。特別例会費5,000円を10月例会にて徴収。第43回音楽芸術フェスティバルの案内を配布する予定。

### 2) 情報委員会

内山委員長

プロバスだより第310号を4頁建てで発行した。

プロバスだよりに係る掲載原稿が不足しています。是非とも記事の提供をお願いします。

なお、ホームページのアクセス数は357件と前月と比較し減少傾向となっている。

### 3) 会員委員会

寺山委員長

現在、前期会費未納者が7名となっている。休会の意向のある会員が居るのでフォローする。

### 4) 研修委員会

飯田委員長

9月に予定されていた卓話、八王子青年会議所理事長の「八王子会議所の組織と活動について」は例会中止のため、10月に持ち越す予定。

特別例会は日本遺産登録を記念して「八王子桑都物語の講話と八王子芸妓の唄と踊り」を予定している。

コロナ禍での開催の可否について、前以て決定する必要があるため、10月の理事会において可否を含め最終的な判断をします。

### 5) 地域奉仕委員会

馬場委員長

8月25日、会長ほか3役とともに市長、教育長、生涯学習スポーツ部長を訪問し懇談する機会を得て、本年度プログラムについて説明し了解を得た。

「生涯学習サロンのカリキュラム」は、開講式の特別講演の講師(八王子市役所・生涯学習スポーツ部の職員であることは決定)を除き決定した。

### 6) 交流担当

一瀬理事

コロナ禍のため各プロバスクラブとも一部を除いて活動を停止している状態です。したがって思うように交流もできないのが実態です。そんななか来年の八王子総会のコ・ホストを近隣の日野、多摩、浮き城の3クラブにお願いし快諾を得ました。

また五所川原での第9回総会が中止になりました。書面による表決となりましたが 提案の議案は特に問題なく思われますので理事会にも諮り「承認」といたしました。

### 7) 宇宙の学校

下山PJリーダー

小惑星リュウグウへの6年の旅を終え、地球に帰還したカプセルの記事は、既に新聞などでご存じのこと

と思います。

小惑星探査機「はやぶさ2」帰還カプセル巡回展が来年の3月に八王子子ども科学館で開催される予定となっているようです。主催者は八王子子ども科学館ですので、詳細はまだ解りません。開催が近づいた時点でお知らせ出来ると思います。



### 万事必殺 ステイホーム 杉山 友一

WHO が新型コロナで全世界に緊急事態を宣言したのが昨年1月30日、あれから2年も既に後半、変異株が次々猛威を振るい、今なお災禍終息の見通しは全く立っていない。



そんな最中に、菅総理肝いりの東京オリンピック・パラリンピックが無観客など苦肉の策の中で、兎にも角にも無事終えたことにはひとまず拍手を送りたい。さりながら、新型コロナが社会の在り様を大きく傷つけ人々の日常を180度ひっくり返してしまったことに変わりはない。人それぞれ置かれた立場で違いはあるものの、従来の生活のリズムは全く通用しなくなってしまった。

私の場合も、実業ではないものの、人に会う約束を毎日のように手帳に書き込み、関わる事柄の進展を確かめながら日々が巡る、そんな生活リズムが長年の習慣となっていた者にとって、延々と続く「ステイホーム」の大号令は息の根を止めるに等しい通達であった。

昨年、新年早々市の福祉部長の仲立ちで、複数の医療や福祉の関係者を巻き込んで設立を目指した「高齢者のためのケアタウン八王子構想」も、次々と初対面の関係者との折衝が待ち構えていたがコロナ禍の下では万事休すとなってしまった。

プロバスの関係でも、近隣市にいま一つプロバスクラブの設立をと昔のロータリー仲間を通じて働きかけてきた事案も、多方面の関係者との面会が途絶えて不発、気の抜けたビールのような結果となってしまった。地域奉仕で最後の一働きをとの思いは、年齢的にも最早取り返しは無理だろうと思っている。

世間とは万事五感を以って築く人と人との間柄で、

「見る」、「聞く」だけの二感のリモートだけでは事を成すには不十分だ。私の古いメモ帳に、シニアの暮らし研究所が「リタイア後の暮らし甲斐 自立が紡ぎ出す幸福」を論じていた記事がある。

「◎円満な食事がとれる ◎老後資金の見通しがある ◎他人との交流の場がある ◎自分が共鳴する社会活動、地域活動への参加 ◎趣味や特技などを活かす適度な機会が持てる ◎適度、適切な運動習慣がある ◎一人の時間が上手に過ごせる ◎信頼する医療機関が身近にある」とのことである。

高齢者の一人として、これら掲示の項目は万事得心して円満な日々を過ごしてきた積りだが、全てはバランスの問題で、一年の内7割を超える日々がステイホームの要請を受けては、「一人の時間が上手に過ごせる」などの完全履行は口で言うほど簡単ではない。小人閑居して不善を為すなどの喩えもあるが、さすがに難儀である。

私は今までに故渋谷文雄会員を第1号として、クラブに32名の新会員を推薦してきた。その中で現在籍者は丁度半数の16名である。そもそも会員はみな高齢故に兎角身边で何かと異動が起きやすいもの、だからこそ新会員の勧誘活動には鋭意努力をしてきたつもりなのだが、コロナ禍は今その最大の妨げとなっている。お互い様に罹患への警戒心から新しい人に会う機会にブレーキが掛けられ、何よりも2年越しのコロナ禍の影響で高齢市民のマインドに押し並べて行動委縮が起きていることがある。

コロナ禍が人や社会に与えた傷の大きさは計り知れない。されば、そんな折であればこそ今改めて、クラブの現有勢力、同志、プロビアンとして長年積み上げてきた「好意と友情」の輪を再確認したいものである。過日、少々体調を崩されている会員さんから「頑張っただけで例会に出ると元気を貰って帰れるのだが、活動のお手伝いが何も出来ず心苦しい」。そろそろ引退を考えているのだが、との相談を受けた。そこで申し上げたことは、クラブの運営は、時に元気な会員が担えば良い話で、どうぞお気軽に例会にお顔出しを頂き、明日に向かう勇気と元気をリセットして頂ければそれで充分ですとお伝えした。

プロバスクラブとしては、組織として細ることなく毎月の例会活動を継続することが出来ればそのこと自体がクラブの最大の社会奉仕活動だと認識してい

る。With Coronaと言われる時代に向けて、クラブの士気を落とすことのないよう共に励みたいものである。

## 火と明かり

火を使うことによって、人類は生活を豊かにしてきた。火は外敵から守り、食物を調理し、暖を取り、闇を照らす明かりに使うなど、いろいろな場面で利用された。縄文時代の火焰型土器に見るように、火に対する思いは特別なものがあつたと思われる。

鈴木遺跡（小平市）をはじめ、日本各地の遺跡から発見される礫群が示すように、旧石器時代にはすでに火が使われていた。縄文時代の竪穴住居の中央には地炉が作られ（図1）、調理、暖房、照明に使われた。



図1 縄文時代の石囲炉

るようになっていく。

縄文土器の一つに吊り手土器（香炉型土器）がある（図2）。吊り手土器の中には燃やした痕跡があり、その煤を分析した結果、キジ、シカ、イノシシなどの脂を燃やしたことが分かった。すなわち、動物の脂を使ったランプといえる。ただし、各集落から1~2個程度の発掘であり、明かりとして使われるより、祭祀に使われたものではないかと考えられている。

火はどうやって手に入れたのであろうか。発火法には火きりと火打ちがある。火きり法とは、火きり杵（木の棒）を火きり臼（木の板）に立て、杵を手でもんで摩擦により火をきり出す方法で「錐もみ式」と呼んでいる。一般に、杵・臼ともに熱伝導率が低い杉や檜が使われる。

手による「錐もみ式」のほかに、弓で杵を回す「弓きり式」と独楽をつけて杵を回す「舞いきり式」があ

## 永井 昌平



炉から照明だけの火が独立したのはいつに頃かわからないが、炉の中で、ひときわ明るく燃える松の根などが照明として使われ

図2 吊り手土器



る。弥生中期の登呂遺跡（静岡市）からは、舞いきりに使った火きり杵の一部と火きり臼が出土している（図3）。



「古事記」の「大国主命の国譲り」の項には「…海布（め＝食用海藻）の柄で火きり臼を作り、海専（諸説あり）の柄で火きり杵を作り、火をきりだして…」とある。日本では火きり法が古くから使われていたようだ。今でも神事に際しては火きりが使われている。出雲大社では「錐もみ式」が、伊勢神宮では「舞いきり式」が使われているとのことである。

一方、火打発火は、鉄と硬い石を擦り合わせて発火させる方法である。火打金は鉄や黄鉄鉱であり、火打石はフリント、石英あるいはメノウなどの珪酸質の硬い石（尖った刃のようしておく）である。硬い石で鉄の微粒子を削り取ると、摩擦熱によって微粒子は酸化鉄になり火花となる。この火花を燃えやすい木綿やガマの穂などの消し炭の火口（ほぐち）に落として火を取る。千葉県内では、古墳時代から奈良・平安時代にかけての、多くの火打金が出土している（図4）。



図4 火打金・火打石 井戸向遺（八千代市）

「延喜式」（927年）には、火きり発火と火打発火の両方が記載されているので、平安時代には両発火法が併用されていたようだ。鎌倉時代には、火きり発火は不便であるために徐々にすたれ、火打発火が多く使われるようになった。火打発火法は、形を変えながら、江戸時代末期まで使われた。

現在では、マッチやライターなどの便利な発火法が色々ある。何かの機会に、火きり法や火打法といった古い発火法を試してみるのも面白い。結構苦勞するものだ。

## ヤギの乳

私は6人兄弟姉妹、男3人、女3人の三男である。生まれは埼玉県深谷市、今や大河ドラマ「青天を衝け」や新一万円札の顔の渋沢栄一の話で俄に賑やかになっているが、もともと深谷はネギで名前が通っていた。

母方の先祖に桃井可堂（1803～1864）という儒者が居て深谷の在の勤王の志士であった。渋沢栄一の生家と近かしかつたので栄一翁のご幼少の頃、一時学問を教えていたと郷土史にある。

そのためか、母は明治生まれでかなり躰に厳しかった。そして背が大きかった。5尺を越えていて女学校では「大女」と呼ばれていた話を聞いたことがある。父は7人の全て男の兄弟であった。全員が戦争に行ったので祖父は国から菊の御紋の盃を頂いた。父は普通よりは少し大柄で甲種合格が自慢だった。そんな両親であったためか、結局、長男が175 cm、次男が178 cm、そして私が180 cm（六尺男と言われた）、長女が156 cm、次女が170 cm、三女が166 cmである。持田家の家族写真には三男女のかなりの大型家族であった。

昔は貧しい時代に健康な子供を育てようと市町村には健康優良児の表彰制度があった。次男が深谷町長賞を、三女は埼玉県知事賞をもらったことも父の自慢だった。知事に抱かれている妹の写真が残っている。私は昭和20年6月生まれなので、戦禍の中でそんな表彰はあるはずなかった。それでも大きくなれたのは、牛乳がなかったのだが、配給米と交換してヤギの乳を私に飲ませたのだと母から聞いた。お蔭で幼稚園からいつも一番後ろの席だった。女子が少ないので、いつも男子同士で席に並んでつまらなかった。背と同じように足も毎年大きくなった。高校になると皮靴を履くことになるが、足のサイズが28 cmで大きくて合うものがない。そこで、父親は近くの靴職人に頼んで私の靴木型を作り革靴を誂えてくれた。

大学に入って、ある合宿で尾瀬の燧ヶ岳と至仏山に行った。市販の登山靴を買って登ったのだ。マメが出来て、結局ビーチサンダルで頂上に立った写真が父に

## 持田 律三



ばれた。すると、その木型を使って登山靴、スケート靴、スキー靴などを誂えてくれた。親指の爪がすっかり死んでしまったからだ。親には随分迷惑をかけたと思っている。

どうしても、できなかった靴が運動靴だ、靴職人も諦めたようだ。そこで、親にも迷惑かけられないし、仕方ないのでズック靴の先端に切り目を入れて親指を楽にさせた。しかし、体育のサッカーの時にはトーキックはできないし、小石が中に入って閉口した。その靴屋さんにお世話になった最後の靴は、私が結婚する時に親がつくってくれた礼装用の靴だった。この還暦まで使っていた。

思えば私は先祖、両親、そしてふるさと深谷の人たちに知らずに守られてきたのだと思う。だから深谷郷土史会にも名を入れている。今まで何の手術もせずに済んできた私の身体はヤギの乳の賜物であろうと感謝している。

## 「東京八王子2022」

### 全国からのお客様をあたたくお迎えを

大会実行委員会委員長 一瀬 明



去る7月の総会にて来年の11月24日（木）に京王八王子プラザにて当クラブがホストになり開催する全日本プロバス協議会第10回総会・東京八王子大会の概要及び予算措置の大枠を決議いただきました。その後例会も連続中止になり説明する機会もありませんでしたのでかいつまんで報告させていただきます。スケジュールは総会資料をご参照ください。

コロナ禍ではありますが現在12名の実行委員でその中身をいろいろ議論しながら詰めているところです。大会は当クラブの50名にお客様130名合計180名規模を見込んでいます。全国には117のプロバスクラブがありますが実働しているのは90クラブ弱です。そのうち全日本プロバス協議会に加盟しているのは47クラブで、その代表の方がここ八王子に来られるわけです。

25周年を終えた当クラブにとってももちろん初めての取り組みですし、旧きを振り返るいい機会にもなる上（いわば25周年記念行事の延長線上に位置づけら

## 俳句同好会便り

私の一句〈九月の句会から〉

河合 和郎

九月も俳句会が開催できず、残念ながら紙上句会に。会話が交わせるコミュニケーションの大切さを改めて痛感。これからも俳句を通してのつながりを大事にしてゆきたい。

夕霧をかき分けて行く老いの脚 下山 邦夫

元気老人のウォーキングの一シーンか。中七の措辞に動きがあり、能動的で面白い。

到来の林檎津軽の薫りのせ 飯田富美子

津軽から林檎が届いた。下五の「薫りのせ」の措辞が林檎の香りと津軽の風を感じさせて巧い。

届きたる友の訃報や法師蟬 馬場 征彦

友の訃報が届く。法師ゼミの鳴く季節。あたかも読経のような蟬の声が心に浸みる。

手のひらの薬数へて秋の朝 野口 浩平

プロバスの仲間なら誰もが毎朝の日課としてやっていること。俳句に難しい言葉は要らない。

マンションや端居懐かし十二階 東山 榮

都会生活では縁側や窓辺で「端居」をして夕涼みをするのは難しい。ましてや12階では。

ざわめきの梢に蒼き後の月 矢島 一雄

木々の梢のざわめきと秋も深まった十三夜の月の光。静と動と光りによる詩情あふれる一句。

定まりてまた揺れ動く池の月 池田ときえ

池面に浮かぶ月を詠んで佳句。3人が特選に選んだのも頷ける。写生のお手本のような一句。

白樺の林静まり秋惜しむ 田中 信昭

林の兼題句。深まりゆく秋の白樺林には深い静寂が。季節の移ろいを繊細な詩心でまとめた一句。

秋蟬の一声残し落ちにけり 河合 和郎

地上での蟬の寿命は2週間ほど。懸命に鳴いて、子孫を残して果てる。最後の一鳴きが切ない。

編集後記

9月の例会も休会になりました。今年になって4月と7月の例会しかできておりません。

早くみんなと普通に集まりたいですね。編集も記事不足で四苦八苦しています。持田律三

れるでしょう)全国のプロビアンと交流するまたとない機会です。どのクラブもいろんな問題を抱えながら活動しているはずですし、「高齢化社会・人生100歳時代」のプロバス活動の意義をどこに見出すか、答えを模索する場にしたいものと考えています。そういった趣旨のもと、総会の後の大会では当クラブを含めて3クラブのプレゼンを企画しています。また歓迎イベントではシニア・ダンディーズに大活躍してもらうほか多彩なプログラムを企画中です。お楽しみの交流懇親会はフリードリンク(お酒何でもあり)、おいしいホテル料理に舌鼓をうってもらうことにしています。いろんな方と知り合ういい機会にしてください。

当クラブらしいお土産も企画中です。翌日は希望者だけですが紅葉真っ盛りの、日本遺産高尾山薬王院参詣と会食を予定しています。またコ・ホストとして近隣の日野、多摩、浮き城の3クラブにもサポート願うことにしております。

まだ1年先の話ではありますが1年ぐらいあつという間にたってしまうのもしばしば経験するところです。例会が中止続きで皆さんの希望を聞く機会がなかなか持てませんが是非ご意見をお寄せください。企画に反映したいと思います。

コロナ禍が早く収束し晴れて全国からプロバスのお客様を会員皆で温かくお迎えしたいと思います。

☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆

### キツネノカミソリ

愉快的な名を付けたものです。ヒガンバナと同属で、花が鮮やかなのに、命名は葉をよりどころにしたと言われております。



ヒガンバナといえ、群生しているところとして埼玉県日高市の巾着田が有名です。キツネノカミソリはこのヒガンバナと同じ仲間ですが、余り見かけないようになってしまいました。

平成に入り、八王子片倉町、宇津貫町周辺で宅地開発が進められ、八王子みなみ野シティが誕生しました。その中の七国に16ヶ所にも及ぶ宇津貫緑地があり、多くの動植物が保護されています。この緑地内にキツネノカミソリというヒガンバナ科の植物の花が咲いています。(環境保護のため立ち入りは禁止) M.U)

